

| | | | |
|-------------------|------------------------------------|------------------|-------------|
| 研 修 名 | 平成19年度学校支援ボランティア入門講座 | | |
| 主 催 者 | 狭山市学校支援ボランティアセンター（SSVC） | | |
| 所 在 地 | 〒350-1304 埼玉県狭山市狭山台4-26 狭山台中学校南棟2F | | |
| 連 絡 先 | TEL 04-2927-1395 | FAX 04-2927-1395 | |
| 推 薦 支 援 センター等名 | | | |
| 研 修 分 類 | 1 学校と地域の連携を内容とする研修プログラム | ○ | |
| | 2 その他（ ） | | |
| 研 修 コー ス | 1 基礎コース | ○ | 2 スキルアップコース |
| | 3 その他（ ） | | |

研修の実施に至る背景

都心から特急小江戸号で36分、16万人ほどの人口を抱え「狭山茶」で有名な狭山市がある。また入間川が横切る緑の都市、狭山市駅西口地区開発中の埼玉県トップの製造品出荷額を誇るグローバル企業のある工業都市でもある。

この狭山市には、高齢者の生きがい作りの理念から生まれた「狭山シニア・コミュニティ・カレッジ（SSCC）」という学びの場がある。このカレッジの大きな特徴は、仲間との出会いとそこで得た知識や今までの経験を生かして、引き続き地域社会の一員として活躍（貢献）することを目的としているところである。

この趣旨に沿って、地域に密着した学校支援活動をスタートしたが課題も多い。学校の支援要請にスムーズな対応をするためには、要員の確保、養成、連絡、調整作業、事務処理など円滑な運営が必要である。

平成18年1月にこの機能の支援拠点として、市内中学校の教室を借用し「学校支援センター」として活動を開始した。この学校支援活動が行政から高い評価をいただき、平成19年4月に「狭山市学校支援ボランティアセンター（SSVC）」として、市から業務委託され、情報発信のために発行している公報誌名でもある『共に学ぶ』をコンセプトに、子どもたちから元気をもらい活発な学校支援活動を行っている。

このセンターには、いくつかの機能があるが、その一つである「学校支援ボランティアやコーディネーターの育成」は、企業と同様に人材が活動のキーポイントであり、学校支援ボランティア養成講座を継続的に実施している。

研修の企画・立案

学校支援ボランティアとその窓口であるコーディネーターの人材確保、質のレベルアップには、まず一般的なボランティア知識の研修と学校支援現場に接することが大切であるとの認識で研修の企画、立案をしている。

支援ボランティア及びコーディネーターの役割、マナーを学ぶことが主目的であるが、同時に学校の受入れ体制(ソフト、ハードの両面)も大変重要であり、各学校現場の先生にも一緒に研修会に参加いただき、お互いの共通認識を深める場として役立っている。

また研修講師には、ボランティア側からは直接に教職員に言い難いこと、あるいは、学校の受入れ姿勢がいかほど重要であるかを研修カリキュラムに組み入れるようお願いしている。つまり受け入れ側の対応についても我々支援する側の立場に立ってお話しいただけることも重要な講師選択の条件である。

このようなことから、センター（SSVC）に人材バンクグループを設置して、研修内容、対象者、開催日を決め、当日までの作業、準備項目に対して、スムーズな開催となるよう段取りを行っている。

■事前準備（段取り）

- 今回の研修目標、狙いの設定、応募チラシ作成、申し込み受付対応
- 出席者の人数などの最新状況を常に関係者に公開し滞りない準備情報とする
- 研修内容：講師と研修ポイントの打ち合わせ

当日の挨拶、司会、受付者などの依頼、確認

○印刷物の準備

- ・当日のプログラム
- ・講義の説明資料…講師より受領して、レジュメ別紙で用意する
- ・出席予定者の一覧表（受付用—住所、TEL番号記入）

■当日の作業、役割

対応メンバーは、開会1時間前に会場に集合して、会場の準備、設営

会場設定…グループワークのためのテーブル設置、各島に表示版

受付テーブル各箇所に案内標識のセット

*受付 *会場設営責任者 *講師、来賓対応（お茶の用意、演台にミネラルウォーター）

*総合司会 *マイク担当 *記録、写真 *全体窓口 *駐車場誘導（公民館、図書館）

■研修のポイント

講師からの一方通行にならないように参加者に感想、意見を述べてもらう学習方法が効果的であり、ワークショップの手法を取り入れグループ討議を行いそのまとめをグループ別に発表してもらうことが大事である。

この時にSSVC運営委員をファシリテーターとして、各テーブルに配置して、円滑な進行を図っている。

研修の内容

①主催及び共催

主 催 狭山市学校支援ボランティアセンター

②対象者及び定員

対象者 コーディネーター、学校支援ボランティア、学校側の受入れ責任者、教職員、一般応募者（市の広報に掲載する他前記のSSCC卒業生に呼び掛ける）

定 員 70名

③研修プログラムの展開内容

学校支援ボランティア入門講座 （当日のプログラムより）

平成19年7月14日（土）10:00～12:30

会場：狭山市中央公民館 3Fホール

司会進行：学校支援ボランティアセンター 事務局長

すでに学校支援ボランティアとして活動している方、今後活動したい方を対象に入門講座を行っている。今年度第1回目は教職員にも参加いただき「学校を取り巻く状況・学校支援ボランティアへの期待、課題などについて伺う。また、10月には『学校見学会』を予定している。

1. 御挨拶 狭山市教育委員会 教育長 (10:00～10:10)
学校支援ボランティアセンター センター長
2. 講 座 『学校支援ボランティアって何?』 (10:10～11:10)
 - ①学校を取り巻く状況
 - ②学校支援ボランティアへの期待
 - ③学校支援ボランティアの課題

【講師経歴】：文教大学教授 平沢 茂 氏

筑波大学、大学院博士課程教育学科研究科卒業

文教大学教育学部教授 同大学教育研究所長

(委員) 日本視聴覚教育学会常任理事 日本生涯教育学会常任理事

【主な著書】『学校経営評価の実践課題と対応-学校改善へのチェックポイント』

『新教育課程実践キーワード』（編著・教育開発研究所）2000年

《 質問 》・・・10分 (11:10～11:20)

《 休憩 》・・・5分 (11:20～11:25)

3. グループワーク「テーマ」・講演で話された学校支援の課題について

1) 講演の感想まとめ → (25分) (11:25～11:50)

| | | |
|-----------|--------------|---------------|
| 2) グループ発表 | → (25分) | (11:50~12:15) |
| 4. 講師の講評 | | (12:15~12:25) |
| 5. 謝辞と締め | 社会教育課長 | (12:25~12:30) |
| ~~~~~ | 終了 12:30 の予定 | ~~~~~ |

④研修の実施に当たってのポイント・留意点

主に支援者やコーディネーターを目指す人、教職員を対象にボランティアに大切なマナーやボランティアに対する教職員の大切なマナーを課題とした。

またコーディネーターを目指す人のみでなく全ての参加者に共通理解を図るために学校や地域社会のニーズに応えられるコーディネーターの役割を考え、コーディネーターに必要なマッチングの技を磨くことも研修の留意点とした。

さらに、講師からの一方向の研修でなく、班を作り、ワークショップ（KJ法）を実施し、教職員には、職制を離れて本音で討論していただき各チームのまとめ発表会を開催し、講師に講評をいただくこととした。

研修の成果と今後の取組

今回69名の参加者は、学校支援に対する関心が厚く、大変有意義な研修であった。

研修終了後のアンケートから「コーディネーターの役割は本当に大事ということが理解できた」「教職員とボランティアとの打ち合わせの時間の確保が難しいが、非常に大切なことなのでしっかりやりたい」「学校がボランティアの存在をどう考えているのか解らなかつたが、教職員と意見交換出来て必要性、重要性が認識できた」など同じような悩みについての共通認識ができ、お互いに情報交換の機会を得ることができたと好評であり、ボランティア側と受入れ側の役割、マナーの基本をお互いに共有することができて、スムーズな支援活動につながっている。

今後、支援分野ごとの（支援学科別等）実践的内容の学校支援研修を企画し取り組んでいきたいと考える。また教育の現場、現物、現実を実際に見ていただき、自分の肌で学校を知っていただくことが必要だと思う。

学校支援ボランティアセンターでは、現在約300人の支援者人材バンクを維持し、小中学校27校のニーズとのマッチングをバランス良く取る体制が徐々に出来上がっているが、現場と密着したコーディネーターの負荷の削減のためには人材拡充、育成の研修活動を地道に継続していくことが一層必要と思われる。

また学校支援ボランティアにとって本当に魅力ある存在とするには、どうあるべきか、どうしたらよいかもこの活動継続のための大きな検討課題である。



教育長の御挨拶



センター長挨拶



講師の平沢教授



司会進行の執筆者



ワークショップ発表

執筆者職・氏名：狭山市学校支援ボランティアセンター 事務局長 諸井 寿夫

コーディネーターからの一言コメント

まず、このセンターが市民主体であり、市と連携して学校支援の拠点となっていることに注目したい。研修で最も良い点は、ボランティアのみならず学校の教員が参加していることである。そして、研修内容が講義と参加型のワークショップで構成されていることから、学校支援ボランティアで最も困難なボランティアと教員の相互理解が図られることである。本音のぶつかりが出ている。今後は初心者向けと経験者向けの研修を分けることも一考だと考える。

(橋本 洋光)